

文部科学省科学技術人材育成費補助事業
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(女性リーダー育成型)」

熊本大学女性研究者ロールモデル誌 vol.4

Role Model





小川久雄 国立大学法人熊本大学長

少子化による人口減少社会の到来により、我が国は女性の社会進出と活躍を一層推進する必要があります。大学も例外ではありません。女性研究者が男性と対等に活躍できる環境を大学にも整え、女性研究者の数を大幅に増やすことが重要です。

本学は令和5年4月よりダイバーシティ推進室を設置し、10月には科学技術振興機構のプロジェクト「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(女性リーダー育成型)」に本学の「ブースター未来女性プログラム」が採択され、女性研究者支援の取組を加速させています。本誌はその取組の一環として、過去2年間に本学に着任されたフレッシュな女性研究者の素敵な研究人生をご紹介します。これから研究者を目指す若い人たちに、大いなる刺激と新たなライフプランの設計指針を与えてくれると思います。



前田ひとみ 国立大学法人熊本大学副学長

熊本大学の大学生・大学院生の約40%が女性です。令和6年度に創設される情報融合学環では、学校推薦型入試に女子枠が導入され、これまで女性が少なかった工学系分野でも女子学生が増えることが期待できます。一方で、残念なことに、日本の研究者に占める女性の割合は経済協力開発機構(OECD)加盟国の中で最低レベルにとどまっています。

本学では、約150名の女性教員が、自分らしく輝きながら、日々、教育・研究に取り組んでいます。本誌では、さまざまな研究分野で活躍している6名の若手女性研究者の研究者を目指したきっかけ、キャリアパス、研究とライフイベントとの両立の工夫などを紹介します。生き生きと働く先輩女性研究者たちの姿やメッセージは、必ずこれからの未来を描く女子学生の研究者への動機づけと意欲を高めてくれると信じています。

Contents



Role Model 01
山下真里
大学院人文社会科学研究部准教授
4p



Role Model 02
横塚志乃
大学院人文社会科学研究部准教授
6p



Role Model 03
岡香織
大学院生命科学研究部 老化・健康長寿学講座助教
8p



Role Model 04
寺澤有果菜
大学院先端科学研究部助教
10p



Role Model 05
城下由衣
大学院生命科学研究部講師
12p



Role Model 06
安藤宏恵
熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター助教
14p

01

略字の変遷や 俗字の謎に魅せられて、 教員志望から研究の道へ。

人文系（日本語学）

山下真里

大学院人文社会科学部准教授

人文学部

▼
大学院（修士課程）

▼
大学院（博士課程）

▼
大学教員

Mari YAMASHITA



高校教師を目指すも、 卒論で研究の面白さに目覚める

大学入学時は、国語の高校教員を目指していました。大学3年生で教員採用試験の勉強を進めるなか、就職活動をする友人たちに感化されて会社員の道も考えはじめました。教員採用試験には合格、企業の内定もいただいたのですが、卒論執筆中に研究の面白さに魅了されてしまい、大学院に進学することを選びました。現在は日本で使用されている俗字や略字について研究を進めています。

漢字の変遷は、社会や文化と 密接な関係にある

研究の道に進むきっかけとなった卒論は「広」という略字がいつ頃、なぜ生まれたのかを明らかにするというテーマでした。解明が順調に行かず「卒論が書けないか

も」と焦るなか、「そういえば鉾山の鉾という字にも“広”があるな」と半ばやけっぱちになって鉾山資料館に行ってみたんです（笑）。ところが、そこで廣が略字となっていた手がかりを見つけることができました。「鉾」も最初は廣と黄の字が使われていたのですが、鉾山の町では書類などでこの字を日々大量に書く必要があり、どこかの時点で効率を上げるために廣にムの「広」という略字を使うようになったようです。では、一部で発生した略字がなぜ全国的に広がっていったのか。それも鉾山で働く人たちの仕組みにヒントがありました。当時『友子（ともこ）』という坑夫の組合があり、そこに所属すると必要な技術を学んだり、失業した際に就職の斡旋をしてもらったりすることができました。そのため、友子に加入する鉾夫の中には就職の斡旋を目的に鉾山を移動する人たちもいたようです。

また、友子が存在する鉾山同士での手紙のやり取りもあったようです。このような人の移動や手紙のやり取りなどによって、コミュニティのローカルルールだった略字は、全国に拡散されていったのではないかと推測されます。

現在は「甲」と「吊」という漢字に焦点を当てています。これらの漢字は現代では、「甲」は「とむらう」、「吊」は「つる」という異なる意味を持っていますが、実は、明治時代には「吊」も「とむらう」という意味で多く使用されていました。どのような過程を経て「甲」と「吊」は別の意味を持つ漢字になったのか、その変遷と要因について時代背景とともに明らかにすることが研究の目的です。

異なる領域への挑戦が 可能性を広げる

自分自身の気質として、興味が

あることには過集中してしまうところがあるので、心身の健康のためにもなるべく研究以外の時間も作るようにしています。最近は温泉めぐりで気分をリフレッシュしています。また、仙台に住んでいた時に『楽天イーグルス』のファンになり、以来、野球観戦も趣味になりました。熊本に赴任してからは、駐車場巡りをするようになりました。熊本では軽自動車専用の駐車場に「聖」という「軽」の略字が見られますが、これは熊本以外ではあまり多くは見られません。今は趣味として調べていますが、今後は本格的に研究できたらと思っています。

研究や教育においては、自由に試行錯誤できることが魅力です。失敗や挫折もありますが、「次はこのようにしてみたら、うまくいくだろうか」と改善を試みる過程にやり甲斐を感じています。自由な発想と実践が、より良い研究や教育につながると信じています。

Column

Mari YAMASHITA

10年後の目標は？

毎日元気に笑顔で過ごすこと。

好きな言葉は？
人間万事塞翁が馬

とくに学生時代は挑戦の場です。私自身、学部3年生まではジャグリングのサークルにのめり込んでいました。のめり込みすぎて一時期は「大道芸人の道」を本気で考えていたほどです（笑）。卒論で研究の面白さに目覚めましたが、ジャグリングのいろんな技を習得し、極められるように集中して取り組むという点は、その後の研究姿勢にもつながっている気がします。異なる領域に挑戦することで、自分の可能性が広がります。せっかくの学生生活です。さまざまな経験を積んで未来への可能性を広げてほしいと思います。

Profile やました・まり 宮崎県出身。2015年に東北大学大学院文学研究科博士課程修了。博士（文学）取得。2012年日本学術振興会特別研究員DC1。九州女子大学教員を経て、2021年10月より現職。



最近はジャグリングをすることはありませんが、道具は大切に保管しています。

人文系（法学）

横塚志乃

大学院人文社会科学部准教授



声なき者の声を代弁・発信し、平和的で多様性が共存する世界を目指す。

- 外国語学部
- ▼ 企業
- ▼ 渡米
- ▼ 大学院（修士、博士）
- ▼ 研究員
- ▼ 大学教員

移民支援ボランティア活動がターニングポイントに

大学生時代から「マイノリティについて探求したい」という思いがありました。はっきりとしたテーマが決められず、卒業後はIT系商社と外資系弁護士事務所に勤務。同時期に難民支援のボランティア活動を始めました。この難民支援が大きな起点となりました。日本では難民・移民が社会的に認知されていないため、命懸けで日本にやってきた移民はさまざまな問題・災難に直面します。その理不尽な事実を憤りを感じて「移民の国アメリカで、移民問題についてより詳しく学びたい」と渡米を決意。クリティカルな思考と個人の意見が尊重されるアメリカ式の教育に触れ、学ぶことの喜びに目覚めました。そこから博士課程まで進んでいく経緯は、まさに運命に導かれたと言っても過言ではありません。

異文化間対話の重要性を発信

専門は政治科学、国際関係学、

Profile よこつか・しの 東京外国語大学欧米第二課程イタリア語学科卒業後、IT系商社と外資系弁護士事務所に勤務。その後渡米し、オハイオ大学政治科学修士、テラウェア大学国際関係学修士取得。ニュージウム(Newseum)合衆国憲法修正第一条センターに勤務後、マサチューセッツ州立大学ボストン校グローバルガバナンス・ヒューマンセキュリティの紛争解決学部博士課程に進学。2023年10月に熊本大学着任。アメリカ在住中に国際結婚をし、一児の母となる。



Shino YOKOTSUKA

紛争解決学です。この3分野は切っても切り離せない関係にあり、私たちの日常とも密接に結びついています。現在は、アメリカと日本の信教・思想の自由の比較研究に焦点を当て、これらの解釈の違いがマイノリティの人権保護の対応にどのような違いを生じさせているのかを政治科学、紛争解決学の視点から調査研究しています。なかでも紛争解決学は「Better World / よりよい世界になること」を探求する学問です。歴史や宗教などの解釈は関わる人の数だけ存在します。敵対している国々も、両者にとってそれぞれのストーリーがあり、それこそが真実です。しかしその違いがわからないと、何が起きているのかを理解することは難しいもの。だからこそ異文化間対話が必要なのです。私は実際に紛争解決学のプラクティショナーとして従事し、メタバースにて異文化間の対話の機会を作っています。

学生には、冒険心や異なる視点を大切にすること、自分の頭で考えて行動することを強く呼びかけています。これは民主主義社会

にとって非常に重要なことなのです。人々が考える力をなくし、権力者の言うことだけを聞くようになると、ファシズムのように独裁者が社会をコントロールしていく可能性が高まります。だからこそ学生には国際社会で通用するクリティカルシンキングのスキルを身につけ、同調圧力に負けず自分の心からの声を世界に発信していける人になってほしいと願っています。

ワークライフバランスやセルフケアは自身や周囲のためにも必要

アメリカで博士課程に進む際、莫大な仕事量・研究量に押しつぶされそうになることが何度もあり、その度にセルフケアの大切さを痛感しました。すべての研究に言えることですが、平和や紛争についての研究に「ここで終わり」というものはありません。一方で、自分の人生を大切にしながら、周囲を助け社会に貢献していくためにもワークライフバランスやセルフケアは必要不可欠です。そういった点でも、比較的自分自身で時間をコントロールしながら

進めることができる大学教員・研究職は、私のようなワーキングマザーにとってはドリームジョブだと思っています。

熊本に赴任してまだ間もないのですが、自然豊かなこの地での子育ても楽しもうと思っています。また、私自身が母親になったことで「この子たちが安心して生きることができる平和な社会・世界を残したい」とより強く思うようになりました。そんな世界を実現するために、研究を通して声なき者の声を代弁・発信し、紛争解決学のスペシャリストとして社会的憎悪や分断を多様性が共存する平和な環境に変えていくことを目標にしています。



Shino YOKOTSUKA

Column

気分転換・リフレッシュ法

自然いっぱいの場所でのハイキング。アメリカ在住時にはバージニア州・シェナンドア国立公園によく行っていました。家族と愛犬のトイプードルと一緒に阿蘇を散策してみたいです。

03

自主性のある人材を育成しつつ、ハダカデバネズミの老化・がん化耐性の仕組みを研究。



生物系 (動物生命科学)

岡 香織

大学院生命科学研究部
老化・健康長寿学講座助教

Profile おか・かおり 2005年に京都府の高等学校を卒業後、浪人を経て、北海道大学理学部に入学。2010年に同大学卒業後、同大学院修士・博士課程に進学。2015年に博士の学位を取得後、研究対象と分野を大きく変え、ハダカデバネズミの研究をスタート。現在は熊本大学大学院生命科学研究部にて動物の老化・がん化耐性の仕組みを明らかにすべく研究を行っている。

Kaori OKA



ハダカデバネズミの歯は口の外から生え、この大きな出っ歯で硬い土を掘削します。

理学部

▼ 大学院 (修士課程)

▼ 大学院 (博士課程)

▼ 博士研究員

▼ 大学教員

面白い生き物に興味津々だった子ども時代

幼少期から「不思議で面白い生き物」に興味を持っていました。動物が好きで、漫画『動物のお医者さん』を愛読するような子どもでした。漫画の舞台が北海道ということもあり、生物について学ぶなら…と北海道大学理学部へ進学。もともと人と触れ合うことが性格的に得意ではなく「研究室にこもってひとりで実験したい」という思いで研究者を目指しました(笑)。しかし実際に研究室に入ってみるとそのイメージは間違っていたことに気づきました。研究は実験だけでなく論文や学会発表などいろんな人と交流する機会が多いため、コミュニケーション能力は必要不可欠。その点はとても鍛えられました。研究は思った以上に難しく苦勞する場面も多々ありますが、「なぜ生物は老化するのか、なぜ病気にかかってしまうのか」という生物の不思議を明らかにしたいという気持ちが、研究を続ける原動力になっています。

ハダカデバネズミはなぜ老化しない?

学生時代は成績良好で、部活動も頑張る優等生タイプでした。しかし研究室配属後は実験に没頭するあまり、昼間に研究室に来て夜中に帰るといった悪しき生活リズムになっていました。それでも指導教官は私の研究スタイルに

理解を示し、必要なサポートを惜しみなく提供してくださいました。研究室の仲間たちとも切磋琢磨し充実した学生時代を過ごすことができました。修士課程の時には民間企業への就職も考えましたが「研究者としてのキャリアを積みみたい」という思いが強く、最終的には博士課程への進学を決意。爬虫類の性決定に関わる遺伝子の解析に取り組み、博士課程修了後からハダカデバネズミの研究をスタートしました。

ハダカデバネズミは、マウスと同程度の小型齧歯類(約40g)ですが、非常に長寿(最大37年)で、がんをはじめとする老化関連疾患にかかりにくいという性質も持っています。そこで、ハダカデバネズミの遺伝子や細胞、組織のさまざまな刺激に対する応答を比較・解析することで、老化関連疾患に強いメカニズムを明らかにしようとしています。これまでの研究でハダカデバネズミは、マウスやヒトよりも細胞の老化や組織の炎症を防いだり、DNAの損傷を直す能力が高いことが明らかになっています。これらの研究成果は、人間の老化や疾患の予防・治療につながる新たなヒントとなるかもしれません。

研究の魅力は何とんでも「誰も知らない世界の秘密を、自分だけが知っているかもしれない」という好奇心が満たされることです。また、研究を通じて新たな知識や技術を創造し、社会に貢献できるのも大きな魅力です。以前は仕事

に没頭するあまりワークライフバランスを崩すこともありましたが、2022年に子どもが産まれてからは家庭と仕事の両立を意識するようになりました。私と夫の実家が遠方、しかも子どもが双子ということもあり、夫と協力しながら保育園のサービスを最大限に活用して子育てをしています。研究室には子どもがいる方が多く、急な予定変更などにも理解があるので大変助かっています。

時代は大きく変化中。だからこそ自主性が大事に

私が学生だった時と比較すると、大学を取り巻く環境や研究に求められるレベル、スピードは大きく変化しています。しかし、自分の興味や関心を大切に、自ら考えて行動できる人材であれば、必ず活躍できるフィールドは見つかります。さまざまな意見や教養に翻弄されることもあると思いますが、学生たちには「上の世代からのアドバイスは、自分の考えを形成するためのいち材料として活用し、まずは自分の信じる道を切り拓いてほしい」と伝えています。私自身も学生たちの自主性を伸ばすサポートに努めたいと思っています。

Column

Kaori OKA

10年後の目標は?

PI(研究室の主催者)として自分の研究室を立ち上げ、楽しく研究を進めていること

04

カーボンニュートラルに向けて、
新たな太陽電池材料を開拓中。

工学系 (情報電気電子工学)

寺澤有果菜

大学院先端科学研究部助教

理工学部

▼
大学院 (修士課程)

▼
大学院 (博士課程)

▼
大学教員

Yukana TERASAWA

再生可能エネルギーの 新材料開発の取り組み

現在、私は太陽電池材料の開発に従事しています。2050年までにカーボンニュートラルを達成するため、化石燃料からクリーンエネルギーを利用した発電方式への移行が世界的に進んでいます。なかでも再生可能エネルギーである太陽光発電の発電容量は2050年までに現在の約20倍になると見込まれています。しかしながら、既存の技術延長では、将来的な需要に対応するエネルギー変革は難しいことが課題となっています。

私が所属する研究室では、次世代の革新的太陽電池材料の候補として有力な『強誘電体』に着目して研究を進めています。強誘電体では、従来の半導体太陽電池を凌駕する電圧を発生させるこ

とが可能であるというメリットがある一方、電圧を発生させるために極めて重要な空間反転対称性の制御が極めて困難であることが課題です。そこで、私がこれまで従事していた物質の左右性に関する研究から着想を得て、空間反転対称性を制御する自由度が高いキラリティという性質を取り入れた材料設計により、高機能性太陽電池材料の開発に取り組んでいます。本研究により、新たな太陽電池材料を創製し、強誘電体とキラル科学を融合した新規分野の開拓を目指しています。

視野を広げるために 研究分野を大きく転換

もともと生命系の学科の出身ですが、研究室に入って物理化学分野で物質の左右性についての研究を始めました。今まで全く知

らなかったことを学べて、いろいろな研究ができてとても楽しかったなと思います。そのような中で、たまたま強誘電体という分野を知り、興味を持っていました。また、物質の左右性の研究では、測定と解析に基づいた物性の起源解明が主だったため、理学ベースでした。そのため、今度は自在に物質を作れるようになりたいという気持ちが芽生え、工学寄りの研究もしてみたいと思い始めました。そこで、自分たちで新しい強誘電体の物質を作ってその物性評価をするという、ちょうど自分の興味と合致していた研究をしている現在の研究室に移りました。

研究分野を変えることに迷いは全くありませんでした。むしろ自分が興味のあることを研究できることのほうが断然嬉しかったです。私は分野という枠に捉わ

れすぎず、視野を広げるべきという考えが根底にあります。異分野同士に接点を持たせることで、これまでになかった新しい視点で物事を捉えて考えることができ、それにより新しい発想が生まれると思うからです。この選択が今後どうなっていくかわかりませんが、できる限りまで続けていこうと思います。

バランスの取れた生活を楽しむ ことがエネルギーチャージに

熊本大学に赴任するまで九州に来たことがありませんでした。初めて阿蘇山に行ったとき、同じ日本のものとは思えないくらい壮大で感動しました。今まで見てきた風景と全く違い、なんて狭い範囲でしか生きてこなかったんだろうと思いました。今は九州のいろんな場所に行くことが目標な

Column

Yukana TERASAWA

リフレッシュ方法は？

友達と遊ぶこと。ディズニーネイルをしてTDSに行きました！



Profile たらさわ・ゆかな 2021年3月、早稲田大学大学院先進理工学研究科生命医科学専攻博士課程修了。2021年4月～2022年3月、早稲田大学先進理工学部生命医科学科助教。2022年4月～2023年3月、早稲田大学各務記念材料技術研究所次席研究員(研究院講師)(JST-ERATO山内物質空間テクトニクスプロジェクト)。2023年4月より熊本大学大学院先端科学研究部電気電子材料分野に助教として赴任。



医療系（小児看護学）

城下由衣

大学院生命科学部研究部講師



子どもたちに
笑顔が届けることができると、
日々研究に取り組んでいます。

- 大学
- ▼ 病院（看護師）
- ▼ 大学院（博士前期・後期課程）
- ▼ 大学教員

子どもたちとの触れ合いが 研究の道へと導いた

母が薬剤師だったのもともと医療系の仕事に興味があり、大学は医学部保健学科に進学しました。大学3年生時に小児看護学実習で出会った子どもたちから「ありがとう。また遊ぼうね」と感謝のお手紙をもらい、心が熱くなったことは今でもはっきりと覚えています。

また東日本大震災時は学生ボランティアとして東北へ行き、瓦礫撤去のほか、被災者の精神的ケアに携わりたいと仮設住宅に住む子どもたちと全力で遊びました。私は記録用にカメラを持参していたのですが、ある日そのカメラを子どもたちに奪われたんですね。あとでデータを見たら誰かの顔のアップ写真がそれはもうたくさん撮影されていて、みんなで大笑いしたことを今でも懐かしく思い出します。卒論はその時の経験を含め「被災地の子どもたちのケア」をテーマに書きました。

Profile しろした・ゆい 2009年に熊本の高等学校を卒業後、広島大学に入学。2013年に同大学卒業後、看護師として病院勤務を経て、広島大学大学院医歯薬保健学研究科博士前期・後期課程に進学。2019年から同大学の教員、2022年から熊本大学に着任し、現在に至る。

Yui SHIROSHITA



看護師を続けながら 大学院へ進学

大学卒業後は看護師として病院に勤務しました。看護師という仕事には大変やり甲斐を感じていましたが、一方で「研究テーマをもっと掘り下げたい」という気持ちと子どもたちのケアに対する強い思いが芽生え、修士課程への進学を決意しました。しかし大学院では、自分の出来なさ具合に毎日落ち込む日々で、泣きながら論文を読んでいたこともありましたが（笑）。ご指導いただいた先生や院生のみなさんに支えていただきながら、なんとか研究を進めることができました。うまくいかないことも多いのですが、興味のあることを深く調べ新しい知識を得て、そこから考察することの楽しさがあるのが研究の醍醐味だと感じています。

私のテーマは「子どもの痛み」で、早期産児の神経発達促進に向けた疼痛緩和の研究に取り組んでいます。新生児期に採血などの痛みを伴う処置を何度も受けることは、神経発達障害のリスクに

つながることが報告されています。そのリスクを少しでも低下できるように、痛み処置の際に痛みを緩和する方法の確立を目指して研究を進めています。学生時代や看護師時代、また被災地で出会った子どもたちのことを思うと「もっと何かしてあげられたのではないか」と思うことがあります。また折々でもらった子どもたちからのエールも研究への原動力となっています。

家族と周囲の協力があったから さまざまなことを乗り越えられた!

現在、私は2歳の男の子のママでもあります。夫と両家の母に全面的に協力してもらいながら、仕事と子育ての両立に奮闘しています。結婚当初、私は広島、夫は熊本に住んでおり、いわゆる別居婚でした。妊娠中は広島で1人暮らし。コロナ禍だったこともあり外出もほとんどせず、何も起きないように祈りながら過ごす日々でした。熊本に里帰り出産をしたあと、大学教員の仕事復帰と博士課程の審査があったので、

生後2か月の子どもを連れて再び広島に単身で戻りました。平日は、両家の母が交代で広島まで来てくれて、土日は夫に来てもらい、また周りの先生方にご配慮いただきながら、この時期をなんとか乗り越えました。熊本大学に着任後も引き続き家族や周りの先生方に支えていただきながら、仕事を続けることができています。

学生のみなさんには、勉強以外にも「今しかできないたくさん経験」をしてほしいと願っています。その経験は必ず将来の糧となるはずです。私も子どもたちの笑顔を守るために、これからも研究と子育てに全力で取り組んでいきたいと思っています。

Column

Yui SHIROSHITA

宝ものは？

2歳の息子

10年後の目標は？
幸せな暮らしを続けること



自分の想像を超える自分でありたい。
その思いが研究の道へとつながった。

工学系（土木工学・交通工学）

安藤宏恵

熊本大学くまもと水循環・減災
研究教育センター助教

Profile あんどう・ひろえ 2011年に愛知県の高校を卒業後、岐阜大学工学部に入学。2015年に同大学卒業後、同大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻修士課程に進学。その後、同大学大学院博士課程に進学し、2020年に博士（工学）の学位を取得。学位取得後は東京工業大学で研究員を経て、2021年に熊本大学に着任。



世界的にもニーズが拡大している交通工学分野。

工学部

▼ 大学院（修士課程）

▼ 大学院（博士課程）

▼ 大学研究員

▼ 大学教員

就活も視野に入れながら 大学院へと進学

私は土木工学のなかの交通工学分野の研究をしています。専門は交通ネットワーク分析で、とくに災害時に機能不全に陥らない道路ネットワークのあり方やそのための最適な整備計画について、主に数理モデルに基づいた研究を行っています。

学部時代は「勉学に励む」というよりも、バイトやサークル活動に時間をさいてしっかりと楽しむ学生でした。大学院入試の推薦資格があったことを理由に修士課程への進学を決めましたが、その時点でも将来については模索中でした。

研究者になることを意識しはじめたのは修士課程1年目からです。配属された研究室の雰囲気の良いさと指導教員の人柄に魅せられて、研究がどんどん楽しくなってきたからです。学会での成果発表などでさまざまな場所に行ったりと、初めての経験に満ち、また刺激的な毎日を送っていました。とはいえ、修士課程を修了したのは企業で働くことも視野に入れて就職活動もしていました。最終的には企業への就職ではなく研究の道を選びましたが、それは「もっと研究をしたい」という強い思いが背中を押したからです。

研究室には留学生も多かったため海外への興味が膨らみ、修士課程ではブリスベン、博士課程ではシドニーへ留学して海外経験を積みました。シドニー大学では

私の研究テーマであった交通ネットワーク形状論を専門とする先生のもとで学びを得て、自分の幅を広げることができたと思います。自由に研究だけができた幸せな日々でした。

自分でコントロールして進めて いけるのが研究の魅力

この仕事の魅力ややり甲斐は、自分の興味があるテーマ・やりたい研究が自由にできることだと思います。また仕事を進めるうえで、自分のペースでできることも大きなメリット。私は性格的に「一気に集中して追い込みたい時期」と「少し休息したい時期」がありますが、この仕事はその辺りのバランスをうまくとることができるのでありがたいと思っています。今は仕事に集中したい気持ちの方が強いので、ワークライフバランスについて悩んだり考えたりすることはほとんどありません。ただ、適度に息を抜かないと、気づいた時には「体力気力が消耗していた」ということにもなりかねないので、現在は自分で自分を制御するようにしています。そういった面でもワークライフバランスについては今後の課題でもあります。研究には体力も必要と感じ、最近は筋トレに励んでいます（笑）。朝、近所のスポーツジムで腹筋・背筋を20～30分ほど鍛えたあと大学に出勤しています。

休日は、体を休めることが多いですね。睡眠をしっかりって気力

体力をリカバリーさせています。あとはプロ野球のテレビ観戦も息抜きになっています。愛知県出身なので子どもの頃から家族で『中日ドラゴンズ』を応援しています！ただ九州ではドラゴンズのファンの方をなかなかお見かけしないのが残念です（笑）。あと、熊本にはおいしいものがたくさんあって嬉しいのですが、お味噌だけは今でも八丁味噌を使っています。

変化と失敗を恐れないこと。 必ずチャンスはやってくる

私は学部時代には自分が大学教員になるなんてまったく想像していませんでした。みなさんも自分の想像する範疇を超えた将来が待っているかもしれません。学生たちには「目の前にチャンスが訪れたらためらわずぜひ一歩踏み出して挑戦してほしい」と伝えています。もし失敗してもいくらでも別の道はあるし、あと戻りしたって構わない。いつリスタートしても「遅い」ということはありません。失敗は選択を極めていくためのひとつのデータと捉えてみましょう。変化を恐れることなく楽しんで学生生活を過ごしてもらえたらと思います。

Column

Hiroe ANDO

好きな言葉は？

雪に耐えて梅花麗し。

宝ものは？
今までの思い出と経験。



熊本大学ダイバーシティ推進室

〒860-8555 熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号

TEL&FAX:096-342-3281

E-mail: diversity@jimmu.kumamoto-u.ac.jp

<https://diversity.kumamoto-u.ac.jp>

